

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

部局名:

附属図書館

部局長名:

今津 勝紀

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b> 附属図書館は、ガイダンス・セミナー等を積極的に開催して、自主学修向上を図っていく。特にアカデミックライティングについて着実にサポートしていく。また、グローバル化を意識した自主学修環境を継続して整備するとともに蔵書環境についても計画的に整備していく。	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> アカデミックライティングのサポートセミナーを、内容をブラッシュアップし、計36回開催した。また、学部へ出張講義形式でのセミナーも新たに開催した。徐々に参加者が増加しつつあり、学生への認知が進んでいると考えている。また、中四国地区7大学が共同して、グローバル化の一助となる英語多読推進のためのキャンペーンを実施した。 蔵書についても、狭隘化解消のための重複資料を中心とした除籍を進めると共に、各国で様々な学術賞を受賞した図書を電子書籍として整備した。
<b>①-2 年度計画との関連</b> アカデミックライティングへのサポート及びグローバル化への対応	<b>①-2 大学全体への貢献</b> 学生の学習成果の発露となる論文・レポート作成について、感想文ではない論証型レポート作成についての基礎力向上に努めている。また留学のため及び留学生のための資料も計画的に整備している。
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 附属図書館入館者数 アカデミックライティングの受講者数	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 平成30年度附属図書館入館者:689,869名(2月末現在、昨年度比+57,571名) アカデミックライティングセミナー受講者数:計172名(昨年度比約1.5倍)
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<b>②-2 年度計画との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b> 附属図書館が所蔵している資料、特に貴重資料について継続して展示会を開催すると共に国内外への発信を拡充する。 学生・市民が参加できる公開講座・各種セミナー・展示等を積極的に開催して「異分野・異社会との交流の場」として学内外の交流を深める。	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 11月に池田家文庫絵巻展「池田家と寺社」を開催し、1,419名の参加者があった。貴重資料(絵巻類)のデジタル化を拡充すると共に既存の絵巻DBの英語化を進め、英語による検索・閲覧を可能とした。さらに「信長記」や「備前邸考」等の古文書を今後、国際標準になると考えられている「IIIF」の規格でデジタル化し、公開を行った。また、異世代・異文化交流を目的とした知好楽セミナーを4回、社会貢献としての小中学生向け後楽園ワークショップ2回、一般市民向けの公開講座を開催した。
<b>③-2 年度計画との関連</b> 異分野・異社会交流の充実	<b>③-2 大学全体への貢献</b> 自学部だけでなく他学部の学生・留学生・市民と同じセミナーを受講するなどして異世代・異文化交流が進んでいる。
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 各種セミナー等の開催回数と受講者数	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 知好楽セミナー参加者:計4回:208名(昨年度比:約1.4倍)の参加者を得た。
<b>④センター業務</b>	
<b>④-1 目標</b> 附属図書館は、本学の学修・研究の基盤となる電子ジャーナル・データベース・電子書籍等について学内ワーキング等を主導して計画的に整備をしていく。また、学術論文のオープンアクセスを推進し、研究成果の発信を拡充していく。	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 電子ジャーナルについて、基本計画に沿って契約を行うとともにエルゼビアパッケージを解体したことの影響を可能な限り小さくするために導入したPay per Viewについて安定的に供給できるよう継続して購入するタイトル(コアタイトル)とすることを決定した。 今年度採択分から原則公開となった科研費の成果報告書について公開までの手順等について周知を図った。
<b>④-2 年度計画との関連</b> 本学の研究を支える学術情報の計画的・効果的な整備	<b>④-2 大学全体への貢献</b> 第3期中期目標・計画期間の電子ジャーナル整備の基本計画を作成し、計画的に整備を行い学術論文執筆における基盤部分を支えている。
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 電子的資料の提供数と利用度	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 電子ジャーナル提供数:24,340タイトル(前年度比+2,096タイトル) Wiley等主要電子ジャーナルパッケージダウンロード数:348,779(前年比102.7%)
<b>⑤管理運営領域</b>	
<b>⑤-1 目標</b> 安全衛生やセキュリティ等職員に積極的な研修を受講させ、法令遵守等に対する意識向上に努める。	<b>⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> セキュリティe-learning講習会は100%の受講となった。また、附属図書館独自研修としてハラスメント講習やクレーム対応研修を開催するなど、法令遵守や組織マネジメントの向上に努めた。
<b>⑤-2 年度計画との関連</b> コンプライアンス教育の実施により、不正を事前に防止する体制や組織の責任体制の整備・改善を推進する。	<b>⑤-2 大学全体への貢献</b> 職員の安全・安心意識を高め、円滑な組織運営を行った。
<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 必須コンプライアンス研修の受講率	<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> コンプライアンス研修受講率:100%
<b>【総括記述欄】</b>	
平成30年度においては、天災等の影響もあり入館者が減少したが、学生向けの講習会・セミナー等の参加人数は増加傾向にある。しかし、絶対数はまだまだ少ないのが現状で、学修成果の発露のためにもアカデミックライティングへのサポートを続けていきたい。 懸案である電子ジャーナル経費について第3期中期目標・期間の基本方針は立てているが、厳しい大学予算の現状を鑑みると、電子ジャーナル経費・タイトルについて前倒しで見直しを検討しなければならないとも考えている。	